

おわりに

本研究は、新型コロナウイルスの感染拡大に社会全体が一喜一憂する中で始まりました。学校や機関には、できるだけ回答の負担が少なくなるよう調査票を作成したり、感染状況を考慮しながらインタビュー調査の依頼をしたりと、社会状況を鑑みながら調査の実施を進めることになりました。通常とは異なる苦労があった一方、改めて、現場の状況に目を向けて調査協力を依頼することを考える機会となりました。

これまでに経験したことがない状況に対応するため、学校や機関では多忙を極めたと思います。それにもかかわらず、調査にご協力いただいた高等学校の先生方、関係機関の皆様には心より感謝申し上げます。さらに、インタビュー調査に当たっては、新型コロナウイルスの感染状況に気を配りながらも、多くの学校が訪問に応じてくださりました。ご理解・ご協力いただきました管理職の先生方、並びに、対応してくださった先生方には厚くお礼申し上げます。ご協力いただいた皆様のおかげで、ようやく調査結果を報告書に取りまとめることができました。本当にありがとうございました。

本研究では多くの調査を実施したことから、報告書では、高等学校の状況を踏まえ、発達障害等のある生徒を対象とした調査結果を示し、他の障害種を含む全体のデータは資料集としてまとめることとしました。また、インタビュー調査で得た事例を中心にガイドブックにまとめ、活用していただきやすくなるように工夫しました。報告書、資料集、ガイドブックとそれぞれに掲載している内容が異なることから、進路指導担当者をはじめ、障害のある生徒に関わる多くの先生方には、3つを併せて読んでいただき、研究成果をご活用いただけたら幸いです。

研究代表者 インクルーシブ教育システム推進センター
総括研究員 伊藤由美